

文学部生の

リアルな！学生生活

Vol.30

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。



「社会学とはどんな学問だと思いますか？」

この言葉が、初めての講義で教授からかけられた問いでした。その答えは「社会で起きているあらゆるモノ・コトを探求し、分析できるのが社会学だ」ということ。人と人によって生まれる「社会」で起こっている現象にはすべて意味があり、目に見えない心理や感情をも分析することができるのが社会学なのだという説明を聞き、4年間の学びに胸を高鳴らせたのを覚えています。私は、将来マスコミで働きたいという夢を持っており、社会問題に興味があるという漠然とした気持ちで社会学専攻に進みました。そのため、この問いによって社会の仕組みや構造に対してしか視点を持っていなかったことに気



多摩市議会議員長へのインタビュー後
(右から2番目が筆者)



広報室制作 YouTube「ちゅうテレ」で大学の魅力を伝える活動もしています

づき、能動的に学問を究める学生としての自覚を持つようになりました。

社会学専攻での学修

社会学専攻は、1年次に基礎演習や社会学史の講義で社会学の概念や理論を学び、2年次に質的・量的調査を行うことで研究手法を身につけます。特論文執筆の基礎固めを行います。特に、2年次は研究に慣れないなか、アンケート調査やインタビュー調査など、自分で問いを立ててデータを集



ヒルトップにて

める作業を年に4回行うことになるため、学生の間では一番ハードな学年とも言われています。私が最も力を注いだのはインタビュー調査でした。「若者の政治参加」をテーマに取り上げ、多摩市議会議員長へのインタビューを行いました。漠然と抱いていた政治

への疑問を具体的な問いへとブラッシュアップし、何を聞けば結論を導くことができるかを班のメンバーと議論したことで、論理的な組み立てのコツをつかむことができました。さらに、今まで接したことのない議長という立場にある方を対象としたこともあり、調査対象の存在や問題に対して、慎重な言葉選びや真摯に向き合う姿勢が何より大切だと感じました。

学びを得たボランティア経験

社会学専攻では、研究会のお手伝いやボランティアの募集が行われます。私も友人と何度か参加し、1年次は社会学専攻OGの方も所属されているという東京都民安全課の学生ボランティアに参加しました。中高生のスマホ・SNSの安全な利用を啓発するための事業で、実際に都内各地の学校へ赴き、出前授業を行うものです。当時の私は学生として「積極的に世の中を知りたい」と思っていたため、すぐに参加を決めました。

授業ができるようになるまでに数回の研修を受け、都庁の方からスマホ所持開始の低年齢化や「自撮り被害」という新たなボルノ被害があるという啓発内容を聞き、授業を進める際のファシリテーション方法の練習をして現場に臨みました。授業は基本的にク

自問自答と経験から体感する社会学

木村彩莉

文学部人文社会科学科社会学専攻4年
私立南山高校(愛知県)出身



学生ボランティアの感謝状授与式にて
(前列右から2番目が筆者)

ラス単位で行うものですが、一学年全員に向かつて体育館で授業をすることもあり、ネットの恐ろしさや難しさを伝える一方、他人事ではなく「自分事」として捉えてもらうため、クイズ形式で盛り上げる工夫をしました。行政の取り組みの最前線に立たせていただいたことで、社会で起きている問題や目に見えない変化に気づき、分析するという社会学がこうした政策の根拠となり、支えになっているのだと実感できました。

授業では「自分が被害者だったら、その家族・友人だったらどうする？」と生徒たちに問い続けました。この問いかけは自分が社会問題や事象を考察する際に、必ず自分に問いかける言葉となっていて、自分なりの社会学への向き合い方として大切にしていることです。

「自分事(じぶんじ)」と捉える

From the Faculty of Letters



文学部だより



独文研究室とは 文学部ドイツ語文学 文化専攻 共同研究室

文学部ドイツ語文学文化専攻の共同研究室(独文研究室)は、受付とドイツに関連した書庫、そして会議室や自習スペースなどに使われる演習ルームの3つの部屋で構成され、普段は当専攻の学生はもちろん、学部学科を問わず多くの方にご利用いただいております。

独文研究室の最大の特徴は、Goethe-Zertifikat (CEFR準拠のドイツ語試験)の実施です。こちらは欧州評議会が2001年に公開した「ヨーロッパ言語共通参照枠」(CEFR)にのっとり、国際的に自分のドイツ語能力を示せるドイツ語の試験です。中央大学文学部は、ドイツ文化センター(Goethe-Institut)と協

定を結び、2014年度から学内でこの試験を実施しています。本試験の結果は、語学証明として留学先の大学に提出することができますし、就職活動でも国際的に通用する公的資格としてアピールできます。

学内での試験は、年1回の開催となっており、全6段階のレベルのうち初級のA1とA2のみを取り扱っています。対象は、中央大学文学部所属の全学生です。別日程の受験や中級以上のレベル(B1~C2)の受験に関しては、ドイツ文化センターでの受験となりますが、独文研究室でお手続きいただきますと、中央大学割引金額で受験することができます。

当専攻の学生はもちろん、第二外国語としてドイツ語を学んでいる文学部の皆さん、学びの成果の証明に挑戦されてみてはいかがでしょうか。

※2020年度の学内試験の実施につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から現在(執筆時点)検討中です。文学部独文専攻公式WebサイトやCplusなどでお知らせいたしますのでご確認ください。

1年次に自分なりの向き合い方を見つけたこと、そして2年次に参与観察の存在を知ったことが、今取り組んでいる卒業論文のテーマ設定に大きな影響を与えました。それは、高校生のころから好きで応援していた「大学ミスコン」についてです。自分自身がマスコミに興味を持つていることから、アナウンサーの登壇門ともいわれるこのイベントに強く関心を持つていました。大学ミスコンはここ数年、大きな

変革が起きています。SNSの急速な普及により審査の有り様が変わったことや、不祥事や価値観の変化による批判も依然として存在しています。こういったミスコンの実態を調査し、女子学生の社会進出も含めたジェンダー研究を行いたいと思ひ、社会情報学専攻の辻泉先生のゼミに所属しています。2019年度は実際にミスコンに出場し、当事者の立場でミスコンへの疑問を問い直しました。参加したからこ

そ、女子学生が世間からどのように見られているのかを感覚的につかむことができました。外野から見ているだけでは得られなかった視点を持つことができ、勇気を出して参加して良かったと感じています。4年生となった現在は、ここまで書かせていただいたようなさまざまな経験を反映し、論文を仕上げられるよう奮闘しています。